

## となみ駅前商店街「二酸化炭素の排出抑制を目指した緑化整備活動」

### 1. 取り組みの概要

- となみ駅前商店街振興組合（富山県砺波市）では、30 年来続いているアーケード街でのプランター植栽活動に次いで、平成 22 年度より「環境にやさしい商店街づくり」および「心の癒し創出」を目的に、3-6 倍超もの二酸化炭素を吸収すると言われている「サンパチェンス」の植栽活動に取り組んでいる。
- 併せて、エコ祭りを開催し、取り組み事業の周知につとめている。

### 2. 商店街概要

商店街名	となみ駅前商店街
所在地	砺波市永福町
組合数	106
URL	

### 3. 取り組みに至る経緯・背景

- ✓ となみ駅前商店街は、35 年前にアーケード設置と同時に振興組合も設立されている。
- ✓ アーケード街の商店は職住併設型（1 階が商店、2 階以上が住居）の環境である。
- ✓ アーケード街のプランター植栽活動は 30 年来続いている。
- ✓ その背景には「職」と「住」が一体化されていたことから、軒先のお庭感覚（庭先を歩く感覚）で植栽化され、1 店舗 1 プランター間隔で設置されている。そのほか、アーケードの柱部分にも植物を吊り下げられ、立体感を魅せられるようにつとめている。
- ✓ また砺波市は四季を通してチューリップの花が観賞できる世界唯一の施設などを有しているほどの「チューリップの町」として知られ、またアーケード街にはチューリップの花びらがアートで埋め尽くされる「タピ・ドゥ・フルーとなみ」（毎年 4 月下旬）のイベントなどがあり、それらの玄関口である同商店街においては植栽活動で日頃から彩りをみせるようにつとめている。
- ✓ 年間維持費は約 40 万円で、年 2 回の肥料の入れ替え活動を行い、主な従事者は組合役員の持ち回りで、町内会青年部の協力も得ている。

[写真] となみ駅前商店街（アーケード街）に並ぶ植栽プランター



#### 4. 取り組み内容

##### (1) 取り組みの実態

- ✓ となみ駅前商店街では、22年度の取り組み事業として、二酸化炭素を普通の植物よりも3-6倍吸収すると言われる「サンパチェンス」を採り入れ、既設プランターの間に新設している。
- ✓ 導入のきっかけは、商店街加盟店「タネのヨシダ」からのすすめによる。
- ✓ 導入に当たっては、全国商店街振興組合連合会の22年度商店街実践活動事業補助（100万円）を活用している。
- ✓ 今年度より、初めての「エコ祭り」（8月8日）を開催し、会場となったアーケード街に二酸化炭素の吸収力に優れる「サンパチェンス」を設置、環境への配慮と景観の美しさ、そして心の癒しを提供できる商店街づくりをアピールしている。
- ✓ エコ祭りに合わせて、園芸講座（30名募集、参加費無料＝商店街負担）を開催し、市民に向けて環境にやさしい商店街への関心を引き寄せるきっかけを見出している。

[写真] アーケード街に植栽されている「サンパチェンス」



[写真] エコ祭りのチラシ

花いっぱい環境にやさしいお祭  
となみ駅前商店街 **エコ祭り** 8月8日 SUN  
正午 12:00  
午後 8:00

会場 鷹屋靴店前～上銘自転車店前 ※詳細は裏面地図参照

CO<sub>2</sub>(二酸化炭素削減の花)  
**サンパチェンス**を商店街に植込みます

クリーンな地球をめざすエコ商店街  
地球温暖化対策と、心を癒す商店街  
環境にやさしく、安心して安全に  
楽しく買い物ができる商店街

サンパチェンスって？  
大気浄化能力と二酸化炭素吸収能力に優れています。従来の花青葉植物と  
比較し、二酸化炭素が5～8倍、ホルムアルデヒドが3～4倍、二酸化窒素の吸  
収能力は4～6倍ほど高いことが実証されました。

**各種コーナー**

ヘルシー野菜 紹介・試食コーナー	森林組合コーナー	夕市コーナー そま・栗実亭
おいしい 飲食コーナー	北陸電力 エココーナー	デジサポコーナー ソーラーコーナー
フリーマーケット コーナー	トウモロコシ メロン販売コーナー	にぎわいサロン コーナー
ワークハウス となみ野コーナー	氷柱コーナー	手をつなぐ となみ野コーナー
フラワーアレンジメント コーナー	寿々屋コーナー	鮎のつかみどり コーナー

話題の電気自動車「エコカー」がやってくる!!  
(北陸電力提供)

クリーンな地球をめざすエコ商店街  
主催: となみ駅前商店街振興組合 共催: 清野町内会 協賛: 砺波商工会議所  
協力: 協同組合砺波商店会・北陸電力株式会社・森林組合・夕市の会

**イベントスケジュール**

START 午後12:30 <b>野外コンサート</b> ～がくや姫 ～津軽三味線 ～パラノイア ～林道美有紀さん (場所: 特設ステージ)	START 午後3:00 <b>園芸講座</b> 「夏のハイドリカルチャー」 先着30名様(無料) (場所: 特設ステージ前)	START 午後4:00 <b>ピンゴゲーム</b> ★豪華商品有★ (場所: 特設ステージ)	START 午後6:30 <b>ゆがたコンテスト</b> 飛び入り歓迎 ★豪華商品有★ ゆがたの貸出し料(3,000円) 着付は無料(着々提供) (場所: 特設ステージ)
---	--	---	--

(出典) 砺波商工会議所ホームページより

(2) 事業取組に至るまでの問題点とその対応

- ✓ 冬期間を除く植栽シーズンにおいては日頃の水やりを欠かせない。
- ✓ アーケード街には1店舗1プランターが設置され、来街者や職住者にお庭感覚の雰囲気を醸し出しているものの、アーケード街の職住者自らが日々の水やりを行うまでに

至っていない。

- ✓ 背景には、組合員は会費の他、アーケード街の商店に限っては維持管理費として別途会費が徴収されていることから、水やりなど植栽維持は組合活動で賄われるべきとの意識が働いていることがうかがえる。
- ✓ そのため実働部隊は組合役員 26 名が各々属する委員会（商店街活性化委員会・創植委員会、アーケード委員会など）の持ち回り制で対応している。

### （3）事業運営上の問題点とその対応

- ✓ サンパチェンス導入に当たっては、サンパチェンスとはこれまでの植栽物に比べ 1 鉢単価が高価（1 鉢 1,000 円）である。
- ✓ 商店街にとってはこれまでの植栽活動以上に、環境にやさしい商店街づくり、心の癒しを提供できる商店街づくりを目指す上では欠かせないことから、全国商店街振興組合連合会の補助事業を活用することにより初期投資分を賄う対応をしていく。
- ✓ 補助事業などの情報源は、同商店街事務所は登記上、砺波商工会議所に籍を置いているため、商工会議所等から入手できる環境に置かれていることがうかがえる。

### （4）事業継続のポイント

- ✓ アーケード街の設置に伴って設立された振興組合であり、また組合設立時と同年代に植栽活動が始まっていることからアーケード街の維持管理、イコール植栽活動の存続が根付いていることがうかがえる。
- ✓ 植栽活動の球根などの維持費は大方、組合運営の駐車場収益から賄われている。

## 5. 地域とのつながり

- ✓ 事業取り組みの中心は、となみ駅前商店街振興組合の役員のほか、町内会青年部（約 120 人）が支援者となっている。
- ✓ ただし、町内会青年部の約 7 割は同商店街店主に当たるため、組合役員のみが主体者意識はなく、皆の支え合いが商店街の植栽活動を長年続くことができる源であることがうかがえる。

## 6. 取り組みによる成果

- ✓ 冬期間は降雪で閉ざされる地域であるため、冬季以外のシーズンは商店街を花いっぱい埋め尽くし、来街者が訪れた際に「花いっぱい」感覚を得て、心の癒しにつながっている。その結果が 30 年もの長い期間の事業継続につながっていることと言える。
- ✓ 砺波市は市街地郊外に大規模商業施設が建ち並び、昼間人口が 20 万人に上るほどでモータリゼーション社会化しているが、植栽活動を通して商店街の通りに車が一時停車し商店街に立ち寄る光景が出てきている。

## 7. 今後の課題・展望

- ✓ 組合員の高齢化が進む傾向にある中、30年来続いている植栽活動の継続が今後の課題であり、今まで以上に町内会青年部など諸団体の協力支援が大事である。
- ✓ アーケード街に属する商店は主に卸商を営む店舗で占められるなか、今日の経済不況や高齢化等で廃業し空き店舗化が進んでいることから、空き店舗対策が急務となっている。アーケード街の維持管理費はアーケード街店舗で賄われていることからその維持に影響を及ぼす懸念があるためである。(空き店舗：加盟店舗110店中20店舗)
- ✓ 平成22年度に限っては、空き店舗対策の一環として、アーケード街に「にぎわいサロン」を設置（県補助）し、同組合事務所も仮事務所として併設し事務員を常駐している。